今までの授業

- ・ 繰り返し学習することで基礎・基本の定着を目指している。
- ・ 習熟度別学級による授業を実施している。
- ・ 必要に応じてICTを活用し、イメージ化の一助にしている。
- ・ 力のある生徒には導き方が多数ある演習を用意し興味関心を引き出している。
- ・ 定期的な問題集を提出させることで家庭学習の定着を目指している。

今回の調査結果

第1学年
 授業アンケートより、「主体的に取り組む姿勢」や「授業の分かりやすさ」という面では100%に近い回答があるが、自分の考えを伝え合う授業は98%であった。

第2学年
 1学期授業アンケートの集計結果では、昨年度2学期の結果と比較すると、「分かりやすく、みんなの理解をたしかめながら授業が行われていますか。」の項目が、92.1%から、94.1%へと向上した。

第3学年
 全国学力調査の結果は、全国平均52.5点、都平均57点のところ、53点であり全国平均を上回った。観点別では、知識・技能は全国平均を上回ったが、思考・判断では、2点下回った。

課題

第1学年
 分数を含む計算、分数と小数を含む計算ができない生徒が見受けられる。また、思考力・判断力を問う問題では、問題内容を整理することや自分の考えを持つことに課題がある。

第2学年
 授業アンケートの「自分の考えをまとめたり、伝え合ったりする授業が行われていますか。」の項目が、91.1%から88.7%に下がっているの、その点の改善を図ってきたい。

第3学年
 2年生の等式の変形の問題の正答率が、全国平均よりも低く、知識・技能を問う問題でもつまづいている生徒がいること分かるので、それらの生徒の基礎・基本的な力を養わなければならない。

授業改善の具体的な方策

第1学年

【授業を改善すること】

基礎学力が定着していない、または小学校の範囲でつまづいていることにより、数学に対する学習意欲が低いことや、苦手意識をもっている生徒も見受けられるので基礎学力や学習意欲の向上を目指す。また、グループを作り、話し合い学習を行わせる。その中では、問題を解いた過程や、計算結果などを話し合わせ、問題を解いていくために必要な、思考力・表現力を身に着けさせる。

第2学年

【授業を改善すること】

毎年2学年では、授業アンケートでの総合的な集計結果が下がる傾向にある。理由として考えられるのは、「連立方程式」や「一次関数」の単元でのつまづきや、学習意欲の低下などである。特にこれらの単元では、基礎・基本の定着を徹底し、生徒の関心・意欲が下がらないように心掛けていきたい。また、生徒が他の生徒に、解き方の説明をする機会を設けるなどし、主体的に学習に取り組む態度の向上も図っていきたい。

第3学年

【授業を改善すること】

生徒の実態に合わせ、じっくりコースは教科書の基本的な問題を解く力を、しっかりコースは思考力の向上を図る。また、授業アンケートの「自分の考えをまとめたり、伝え合ったりする授業が行われていますか。」の質問に対する満足率が、他の項目に比べて低いので、グループで解き方を話し合わせたり、発表させる機会を与えるなどして、主体的に学習に取り組む態度を養っていきたい。